

# ●指定管理者業務評価シート(3年目評価)

施設名	すばるホール	施設所管課	生涯学習課
指定管理者名	公益財団法人富田林市文化振興事業団		
指定期間(年度)	平成26年度 ~ 平成30年度	評価対象年度	平成 28 年度

## ①評価の実施方法

下記の評価項目ごとに、指定管理者による『自己評価』及び施設所管課による『担当課評価』を実施し、その2つの評価結果を基に富田林市指定管理者選定委員会(以下、「委員会」という。)において、評価項目に対する評価及び総合評価を行う。

## ②評価基準

- ①自己評価及び担当課評価では小項目単位でa～dの4段階(aが最良)の評価を行い、仕様書や自らの提案(業務計画)の内容を満たす問題のない内容を「b」とする。
- ②委員会評価では、上記の2つの評価を基に委員会として1～10の10段階(10が最良)で評価を行う。

## ③評価項目

評価項目	自己	担当課	委員会	
基本方針	1 管理運営の基本方針の周知が適切になされている。	a	a	6.6
	2 管理運営において環境への配慮がなされている。	a	b	
	3 施設利用における公平性が確保されている。	a	a	
	4 地域住民・各種関係団体等との意見交換や連絡調整が適切に行われている。	a	a	
コンプライアンスの取組み	5 業務実施における法令遵守のための体制が整備されている。	d	d	4.5
	6 個人情報保護に関する体制が整備されている。	b	b	
利用者数・利用率向上策	7 利用者数向上策について、提案通りに実行されている。	b	b	6.7
	8 利用促進に係る広報・PR活動を積極的に行っている。	b	b	
利用者サービス向上策	9 利用者サービス向上策について、提案通りに実行されている。	c	b	6.5
	10 利用者意見・要望が事業等に適切に反映されている。	b	b	
	11 苦情処理やトラブルへの対応について、市との連携、市への報告が適切に行われている。	a	a	
自主事業	12 自主事業の実施により、施設が有効に活用されている。	b	b	6.7
収支計画	13 収支予算書と比較して、収支状況が妥当である。《収入》	c	c	5.7
	14 収支予算書と比較して、収支状況が妥当である。《支出》	a	a	7.5
人員配置計画	15 提案に基づき、効率性と安全性を両立した人員配置・勤務体制となっている。	b	b	6.9
人材育成についての考え方及び研修計画	16 研修計画に基づき、人権啓発のための研修が実施されている。	a	a	6.8
	17 研修計画に基づき、人材育成のための研修が実施されている。	a	b	
危機管理策	18 緊急時の体制や対応策について必要な対策を講じている。	b	b	6.6
日常の安全管理	19 事業計画書等に従い、防犯・防災・衛生管理業務を適切に行っている。	a	a	7.1
	20 事故防止及び安全確保のために必要な対策を講じている。	a	a	
	21 仕様書等に従い、清掃業務が行われている。	a	b	

	自己	担当課	委員会	
その他	22 備品台帳に記載された備品を適切に管理している。	a	a	7.4
	23 外部への業務委託が適正に行われている。	a	a	

## ④改善要求点(2年目評価における運営改善を要求した項目に対する評価)

	改善要求点	対応及び評価
ア	施設の利用率を向上させるため、PR活動の強化など各種の取り組みを継続するとともに、施設の定期利用へ繋げるための方策や利用率の低い施設の改善策について検討されたい。	ポイントシステムの復活や利用率の低い施設のリニューアルなどは検討段階であり、実現までに至っていない。利用料金収入増につながる効果的な対策を早急にも実施すべきである。
イ		
ウ		

## ⑤評価者コメント

指定管理者	28年度においては人員的に欠員のある状況下でしたが、不平等の再発防止に関する種々の改善、課題の克服を行うとともに、配置の工夫や職員の努力によって多数の事業を展開しつつ、施設の安全と法令順守に特に注力し、業務に臨みました。様々な芸術文化事業の実施はもちろん、市民芸術活動の支援にも取り組み、特色ある芸術文化の創造・発信に努めるとともに中学校吹奏楽部対象のクリニック他を実施し、教育分野への連携も強化しました。
施設所管課	今回の事業団職員による公金の横領等の不正経理問題は、公的財団としてあるまじき行為であり、重大な法令違反である。コンプライアンス規程等、各種規程の整備や出納業務の厳格化など業務について一定の改善が見られるものの、体制の早急な立て直しが急務である。また、より一層効率的な管理運営を進め、経費のさらなる節減に努めるとともに、利用者サービスの向上を図り、一日も早い信頼回復のための不断の決意と努力が不可欠である。

## ⑥指定管理者選定委員会による総合評価

委員会評価結果※	委員会講評
65.8 点 <small>(小数点第2位以下を四捨五入)</small>	施設の運営について、団体との意見交換は行われているが、市民の文化創造活動の拠点としていくために、地域住民や利用者の個々の声を直に聴く機会の設置について検討されたい。また、いかなる特性の障がい者にも、接遇や災害時の避難誘導等の対応ができるよう、研修や避難訓練の内容を検討されたい。 今回の不正経理について、その改善策が既に実行されたということであるが、不正は再発するという前提に立ち、様々なチェック機能の強化のみならず、コンプライアンスの体制強化について不断に職員の育成・意識向上を図り、市民からの信頼の早期回復に努められたい。

※ 各項目の得点の合計 79 ÷ [委員会評価項目数(12項目) × 各項目の配点(10点)] × 100

[参考]

【千円】

	平成 26 年度		平成 27 年度		平成 28 年度	
	予算	決算	予算	決算	予算	決算
指定管理料	241,984	241,855	243,731	242,987	243,360	226,981
利用料金	57,200	56,470	57,500	58,330	57,800	55,610

【人】

	目標	実績	目標	実績	目標	実績
	利用者数	255,000	217,258	255,000	214,656	250,220

【%】

	目標	実績	目標	実績	目標	実績
	利用率	—	67.4	62.5	65.1	63.0

# ●指定管理者業務評価シート(3年目評価)

施設名	富田林市市民会館	施設所管課	生涯学習課
指定管理者名	アクティオ株式会社		
指定期間(年度)	平成26年度 ~ 平成30年度	評価対象年度	平成 28 年度

## ①評価の実施方法

下記の評価項目ごとに、指定管理者による『自己評価』及び施設所管課による『担当課評価』を実施し、その2つの評価結果を基に富田林市指定管理者選定委員会(以下、「委員会」という。)において、評価項目に対する評価及び総合評価を行う。

## ②評価基準

- ①自己評価及び担当課評価では小項目単位でa～dの4段階(aが最良)の評価を行い、仕様書や自らの提案(業務計画)の内容を満たす問題のない内容を「b」とする。
- ②委員会評価では、上記の2つの評価を基に委員会として1～10の10段階(10が最良)で評価を行う。

## ③評価項目

評価項目	自己	担当課	委員会
基本方針	1 管理運営の基本方針の周知が適切になされている。	a	a
	2 管理運営において環境への配慮がなされている。	b	b
	3 施設利用における公平性が確保されている。	a	a
	4 地域住民・各種関係団体等との意見交換や連絡調整が適切に行われている。	a	a
コンプライアンスの取組み	5 業務実施における法令遵守のための体制が整備されている。	a	a
	6 個人情報保護に関する体制が整備されている。	a	a
利用者数・利用率向上策	7 利用者数向上策について、提案通りに実行されている。	c	c
	8 利用促進に係る広報・PR活動を積極的に行っている。	b	b
利用者サービス向上策	9 利用者サービス向上策について、提案通りに実行されている。	a	a
	10 利用者意見・要望が事業等に適切に反映されている。	b	b
	11 苦情処理やトラブルへの対応について、市との連携、市への報告が適切に行われている。	a	a
自主事業	12 自主事業の実施により、施設が有効に活用されている。	c	c
収支計画	13 収支予算書と比較して、収支状況が妥当である。《収入》	d	d
	14 収支予算書と比較して、収支状況が妥当である。《支出》	a	a
人員配置計画	15 提案に基づき、効率性と安全性を両立した人員配置・勤務体制となっている。	b	b
人材育成についての考え方及び研修計画	16 研修計画に基づき、人権啓発のための研修が実施されている。	b	b
	17 研修計画に基づき、人材育成のための研修が実施されている。	b	b
危機管理策	18 緊急時の体制や対応策について必要な対策を講じている。	b	b
日常の安全管理	19 事業計画書等に従い、防犯・防災・衛生管理業務を適切に行っている。	a	a
	20 事故防止及び安全確保のために必要な対策を講じている。	a	a
	21 仕様書等に従い、清掃業務が行われている。	b	b

	自己	担当課	委員会
その他	22 備品台帳に記載された備品を適切に管理している。	b	b
	23 外部への業務委託が適正に行われている。	a	a
			7.4

## ④改善要求点(2年目評価における運営改善を要求した項目に対する評価)

改善要求点	対応及び評価
ア 自主事業、各種講座の定員充足率を向上させるため、PR活動の強化など各種の取り組みを進めるとともに、施設の定期利用へ繋げるための方策について検討されたい。	これまでのカルチャー中心の講座に加えて、生活、レジャー関係など、楽しく役に立つ多彩な講座の展開は評価されるが、利用者数は減少しており、新たな方策の検討が必要である。
イ 安定的、継続的な施設の管理運営に資するよう、利用料金収入増の方策について検討されたい。	施設利用者が「ピーター」になるよう、「居心地」「つかい心地」の向上へのスタッフ一丸となつての取り組みや、新規利用者獲得のための、地元企業等への積極的なアプローチなどの努力は認められるものの、利用料金収入は低下しており、さらなる収入増対策が必要である。
ウ	

## ⑤評価者コメント

指定管理者	27年度に開始した備品の整備も定着し、不要なものの廃棄と眠っていた備品の再利用などが進んだ。大きな施設の定期教室利用者の撤退などで利用収入は大きく減少したものの、新規の利用・問合せ、また既存の利用者のリピートが増えており利用率は1%向上した。今後は宴席・パーティーの利用による大きな施設の貸出の向上を目指していきたい。自主事業については事業の幅を広げて回数を増やし、協力団体、フリーパーパーへの告知を増やすなど積極的なPRで集客の増加にはなったものの、成果としてはまだ達成しておらず、継続的な動きでピーターを増やしていきたい。
施設所管課	多彩な自主事業の展開や積極的なPR活動など、利用者獲得のための、継続的な努力は評価できるが、大口利用者撤退分の利用収入減は、なかなか補えず、安定的な運営のためにも、利用者の拡大が急務である。今後も、新規利用者やリピーターの獲得につながる継続的な取り組みに努められたい。

## ⑥指定管理者選定委員会による総合評価

委員会評価結果※	委員会講評
69.5 点 <small>(小数点第2位以下を四捨五入)</small>	利用者が減少した原因は、定期利用者の撤退によるものことであるが、例えば子育て世代の団体など高い集客力や広いネットワークを持つ団体との共催事業の開催や、団体の主催講座を誘致する、あるいは市民参加型イベントを開催するなど、新たな利用者を増加させるしくみを講じられたい。 また、貸館の管理者という枠に収まることなく、地域のまちづくり活動に関わり、結果的に新たな利用者を生むことに繋げている団体もあるため、そのような例も参考にされながら利用客の回復に向けた対策を講じられたい。

※ 各項目の得点の合計 83.4 ÷ [委員会評価項目数(12項目) × 各項目の配点(10点)] × 100

[参考]

【千円】

	平成 26 年度		平成 27 年度		平成 28 年度	
	予算	決算	予算	決算	予算	決算
指定管理料	56,657	56,555	55,522	55,522	55,323	55,323
利用料金	20,000	18,821	20,300	17,384	20,500	16,790

【人】

【人】

	目標	実績	目標	実績	目標	実績
	利用者数	117,240	115,122	108,925	113,520	117,000

【%】

【%】

	目標	実績	目標	実績	目標	実績
	利用率	—	75.5	75.0	68.1	83.6

# ●指定管理者業務評価シート(3年目評価)

施設名	富田林市立喜志駅地下自転車駐車場	施設所管課	道路交通課
指定管理者名	センターパーキング富田林		
指定期間(年度)	平成26年度 ~ 平成30年度	評価対象年度	平成 28 年度

## ①評価の実施方法

下記の評価項目ごとに、指定管理者による『自己評価』及び施設所管課による『担当課評価』を実施し、その2つの評価結果を基に富田林市指定管理者選定委員会(以下、「委員会」という。)において、評価項目に対する評価及び総合評価を行う。

## ②評価基準

- ①自己評価及び担当課評価では小項目単位でa～dの4段階(aが最良)の評価を行い、仕様書や自らの提案(業務計画)の内容を満たす問題のない内容を「b」とする。
- ②委員会評価では、上記の2つの評価を基に委員会として1～10の10段階(10が最良)で評価を行う。

## ③評価項目

	自己	担当課	委員会	
基本方針	1 管理運営の基本方針の周知が適切になされている。	b	b	7.1
	2 管理運営において環境への配慮がなされている。	a	b	
	3 施設利用における公平性が確保されている。	a	a	
	4 地域住民・各種関係団体等との意見交換や連絡調整が適切に行われている。	b	b	
コンプライアンスの取組み	5 業務実施における法令遵守のための体制が整備されている。	b	b	7.2
	6 個人情報保護に関する体制が整備されている。	a	a	
利用者数・利用率向上策	7 利用者数向上策について、提案通りに実行されている。	b	b	7.2
	8 利用促進に係る広報・PR活動を積極的に行っている。	b	b	
利用者サービス向上策	9 利用者サービス向上策について、提案通りに実行されている。	b	b	7.3
	10 利用者意見・要望が事業等に適切に反映されている。	b	b	
	11 苦情処理やトラブルへの対応について、市との連携、市への報告が適切に行われている。	a	a	
自主事業	12 自主事業の実施により、施設が有効に活用されている。	b	b	7
収支計画	13 収支予算書と比較して、収支状況が妥当である。《収入》	b	b	7.1
	14 収支予算書と比較して、収支状況が妥当である。《支出》	a	a	7.9
人員配置計画	15 提案に基づき、効率性と安全性を両立した人員配置・勤務体制となっている。	a	a	7.7
人材育成についての考え方及び研修計画	16 研修計画に基づき、人権啓発のための研修が実施されている。	b	b	6.6
	17 研修計画に基づき、人材育成のための研修が実施されている。	b	b	
危機管理策	18 緊急時の体制や対応策について必要な対策を講じている。	a	a	7.4
日常の安全管理	19 事業計画書等に従い、防犯・防災・衛生管理業務を適切に行っている。	b	b	7.2
	20 事故防止及び安全確保のために必要な対策を講じている。	b	b	
	21 仕様書等に従い、清掃業務が行われている。	a	a	

	自己	担当課	委員会	
その他	22 備品台帳に記載された備品を適切に管理している。	b	b	7.1
	23 外部への業務委託が適正に行われている。	a	a	

## ④改善要求点(2年目評価における運営改善を要求した項目に対する評価)

	改善要求点	対応及び評価
ア		
イ		
ウ		

## ⑤評価者コメント

指定管理者	基本方針及び計画に基づいた運営を行っている。また、今年度の支出面に関して、電灯設備に関してLED化に順次取組み、H29.3.31現在85灯中25灯をLED化し、間接的な環境保護と経費の節減を図ってきた。今年度の収支計算では、施設の老朽化に伴い修繕箇所及び備品・消耗品等が増加したが、全体的に黒字となり貴市へ納付する事が出来た。しかしながら、人口の減少及び企業の事業撤退により運営状態は安心できない状態であり、今後を考える上で評価シートを記入する事により、気づきが生まれ、次年度に活かせる新たな施策を講じて業務を遂行して行かなければならないと考えます。
施設所管課	基本方針及び計画に基づいた運営を行っていただいている。電灯設備のLED化などの修繕費用が前年度より増加したが、レンタサイクル事業やAEDの設置などの自主事業にも積極的に取り組まれ、利用者の向上に貢献している。その結果、前年度を上回る利用者数の増となり、黒字として市へ還付金を確保された。今後、人口の減少及び企業の事業撤退による利用者減が見込まれることから、市との調整会議で密に連携を取り、将来に向けた新たな施策を講じていく必要がある。

## ⑥指定管理者選定委員会による総合評価

委員会評価結果※	委員会講評
72.3 点 <small>(小数点第2位以下を四捨五入)</small>	経営状況については、指定管理者として努力されていることは評価できるが、施設内に設置されているAEDを全員が操作できる状況にはないとのことであり、改善されたい。また、近年の外国人旅行者の増加等の社会情勢を捉え、様々な配慮ができるような研修テーマを設定されたい。なお、研修は主に内部職員により行われているということであるが、外部組織が実施しているものの活用も検討されたい。 利用者の声の反映について、アンケート調査が実施されているが、利用者が不安に感じている部分や更なる利用者の洗い出しに向け、その回収率の向上並びに更なる運営への反映を図られたい。

※ 各項目の得点の合計 86.8 ÷ [委員会評価項目数(12項目)×各項目の配点(10点)]×100

[参考]

【千円】

	平成 26 年度		平成 27 年度		平成 28 年度	
	予算	決算	予算	決算	予算	決算
指定管理料	0	0	0	0	0	0
利用料金	18,583	17,951	18,664	18,376	18,748	19,486

【人】

	目標	実績	目標	実績	目標	実績
	利用者数	10,867	10,596	10,882	11,130	10,918

【%】

	目標	実績	目標	実績	目標	実績
	利用率	—	74.4	—	74.9	—

# ●指定管理者業務評価シート(3年目評価)

施設名	富田林市農業公園	施設所管課	農業振興課
指定管理者名	農事組合法人 富田林市南地区協同組合		
指定期間(年度)	平成26年度 ~ 平成30年度	評価対象年度	平成 28 年度

## ①評価の実施方法

下記の評価項目ごとに、指定管理者による『自己評価』及び施設所管課による『担当課評価』を実施し、その2つの評価結果を基に富田林市指定管理者選定委員会(以下、「委員会」という。)において、評価項目に対する評価及び総合評価を行う。

## ②評価基準

- ①自己評価及び担当課評価では小項目単位でa～dの4段階(aが最良)の評価を行い、仕様書や自らの提案(業務計画)の内容を満たす問題のない内容を「b」とする。
- ②委員会評価では、上記の2つの評価を基に委員会として1～10の10段階(10が最良)で評価を行う。

## ③評価項目

		自己	担当課	委員会
基本方針	1 管理運営の基本方針の周知が適切になされている。	b	b	7.1
	2 管理運営において環境への配慮がなされている。	b	b	
	3 施設利用における公平性が確保されている。	a	a	
	4 地域住民・各種関係団体等との意見交換や連絡調整が適切に行われている。	a	a	
コンプライアンスの取組み	5 業務実施における法令遵守のための体制が整備されている。	a	a	6.9
	6 個人情報保護に関する体制が整備されている。	b	b	
利用者数・利用率向上策	7 利用者数向上策について、提案通りに実行されている。	c	c	5.9
	8 利用促進に係る広報・PR活動を積極的に行っている。	b	b	
利用者サービス向上策	9 利用者サービス向上策について、提案通りに実行されている。	c	c	6.4
	10 利用者意見・要望が事業等に適切に反映されている。	b	b	
	11 苦情処理やトラブルへの対応について、市との連携、市への報告が適切に行われている。	a	a	
自主事業	12 自主事業の実施により、施設が有効に活用されている。	c	c	5.8
収支計画	13 収支予算書と比較して、収支状況が妥当である。《収入》	d	d	5.2
	14 収支予算書と比較して、収支状況が妥当である。《支出》	a	a	6.3
人員配置計画	15 提案に基づき、効率性と安全性を両立した人員配置・勤務体制となっている。	b	b	6.6
人材育成についての考え方及び研修計画	16 研修計画に基づき、人権啓発のための研修が実施されている。	b	b	6.2
	17 研修計画に基づき、人材育成のための研修が実施されている。	b	b	
危機管理策	18 緊急時の体制や対応策について必要な対策を講じている。	b	b	6.9
日常の安全管理	19 事業計画書等に従い、防犯・防災・衛生管理業務を適切に行っている。	b	b	6.9
	20 事故防止及び安全確保のために必要な対策を講じている。	b	b	
	21 仕様書等に従い、清掃業務が行われている。	b	b	

		自己	担当課	委員会
その他	22 備品台帳に記載された備品を適切に管理している。	b	b	6.9
	23 外部への業務委託が適正に行われている。	a	a	

## ④改善要求点(2年目評価における運営改善を要求した項目に対する評価)

	改善要求点	対応及び評価
ア	天候・作柄等の不確定要因に左右される面があるとはいえ、入園者数が前年度を下回っています。次年度の事業計画策定にあたっては、当該要因による影響の低減策を講じるなど、入園者数の維持・増加につながる施策を検討してください。	これまでの栽培方法の改善に加えて、新規果樹(ブルーベリー、イチジクなど)の導入及び、収穫作物の種類増加と収穫可能な期間の拡大で、天候や作柄の変動リスクの低減を図っています。しかしながら、リスクをゼロにすることは不可能であることから、収穫体験以外の目的の来園者をさらに呼び込むために、公園内での遊び体験拡充(遊具の増設・鯉釣り(新たな体験遊び)など)を図るなど、農業公園の活性化に向け、強力に取り組んでいます。
イ		
ウ		

## ⑤評価者コメント

指定管理者	28年度業務は、年度計画に対して入園者数が大幅に減少しました。今後とも予期せぬ天候不順や病虫害による農作物の生育不良など不測の事態も起こり得ますが、年度計画達成に向け万全を期すことがより一層重要だと考えます。取り巻く環境は、少子化等さらに厳しさが予想されますが、お客様に「また来たい」と満足いただけるよう一層努力する所存です。市担当課の適切なご助言のほどお願い致します。
施設所管課	28年度は入園者数及び利用料金収入が過去最低となった。三大自主事業である、ぶどう・サツマイモ・イチゴのうち、天候不順による入園者数減少の影響を受けたぶどう、結実不良(原因は育苗の失敗と天候不順と考えられる)を挽回できなかったイチゴの収入減を、好調だったサツマイモ、ミカンで補えませんでした。農業公園活性化事業の取り組み過程で得られた知見も活かしながら、体験遊びの充実、持ち込みパーベキューの拡充、6次産業化の推進(白ワイン・公園産サツマイモを使った焼酎の商品化)などの取り組みを進めました。家族連れ来園者数の指標となる無料入園者数はほぼ横ばいでした。引き続き、農業公園活性化に向け協力連携して取り組んでいきたい。

## ⑥指定管理者選定委員会による総合評価

委員会評価結果※	委員会講評
64.3 点 <small>(小数点第2位以下を四捨五入)</small>	園の設置目的である『農業の振興』の達成に向け、農業技術の向上に取り組まれていることは理解するが、天候による入園者数の減少は開園以来の課題であり、これまで富田林市南地区協同組合に対して本課題解決に向けた公園の魅力向上策を求めてきた。引き続き、農だけに頼らない公園運営の抜本的な発想の転換による魅力向上、並びに職員の経営についての意識及びスキルの養成を強く要望する。また、人件費の計上について、管理事業と自主事業とで按分しているとのことであるが、施設所管課におかれては、人件費以外の支出状況に照らし、その積算方法も含めた指定管理料額の適切さについて確認を行われたい。

※ 各項目の得点の合計 77.1 ÷ [委員会評価項目数(12項目) × 各項目の配点(10点)] × 100

[参考]

【千円】

	平成 26 年度		平成 27 年度		平成 28 年度	
	予算	決算	予算	決算	予算	決算
指定管理料	97,776	97,612	97,776	97,776	99,364	99,364
利用料金	40,500	42,797	40,600	42,267	40,700	30,907

【人】

	目標	実績	目標	実績	目標	実績
	利用者数	85,000	83,068	86,000	81,342	87,000

【%】

	目標	実績	目標	実績	目標	実績
	利用率	6.6	6.7	7.5	7.4	6.6

# ●指定管理者業務評価シート(3年目評価)

施設名	富田林市ケアセンター	施設所管課	地域福祉課
指定管理者名	一般財団法人 富田林市福祉公社		
指定期間(年度)	平成26年度 ~ 平成30年度	評価対象年度	平成 28 年度

## ①評価の実施方法

下記の評価項目ごとに、指定管理者による『自己評価』及び施設所管課による『担当課評価』を実施し、その2つの評価結果を基に富田林市指定管理者選定委員会(以下、「委員会」という。)において、評価項目に対する評価及び総合評価を行う。

## ②評価基準

- ①自己評価及び担当課評価では小項目単位でa～dの4段階(aが最良)の評価を行い、仕様書や自らの提案(業務計画)の内容を満たす問題のない内容を「b」とする。
- ②委員会評価では、上記の2つの評価を基に委員会として1～10の10段階(10が最良)で評価を行う。

## ③評価項目

評価項目	自己	担当課	委員会	
基本方針	1 管理運営の基本方針の周知が適切になされている。	b	b	7.1
	2 管理運営において環境への配慮がなされている。	b	b	
	3 施設利用における公平性が確保されている。	a	a	
	4 地域住民・各種関係団体等との意見交換や連絡調整が適切に行われている。	a	a	
コンプライアンスの取組み	5 業務実施における法令遵守のための体制が整備されている。	b	b	7
	6 個人情報保護に関する体制が整備されている。	b	b	
利用者数・利用率向上策	7 利用者数向上策について、提案通りに実行されている。	c	b	6.4
	8 利用促進に係る広報・PR活動を積極的に行っている。	c	b	
利用者サービス向上策	9 利用者サービス向上策について、提案通りに実行されている。	c	b	7
	10 利用者意見・要望が事業等に適切に反映されている。	b	b	
	11 苦情処理やトラブルへの対応について、市との連携、市への報告が適切に行われている。	a	a	
自主事業	12 自主事業の実施により、施設が有効に活用されている。	c	b	6.3
収支計画	13 収支予算書と比較して、収支状況が妥当である。《収入》	c	c	5.6
	14 収支予算書と比較して、収支状況が妥当である。《支出》	a	a	7
人員配置計画	15 提案に基づき、効率性と安全性を両立した人員配置・勤務体制となっている。	b	b	6.9
人材育成についての考え方及び研修計画	16 研修計画に基づき、人権啓発のための研修が実施されている。	b	b	6.7
	17 研修計画に基づき、人材育成のための研修が実施されている。	b	b	
危機管理策	18 緊急時の体制や対応策について必要な対策を講じている。	b	b	6.6
日常の安全管理	19 事業計画書等に従い、防犯・防災・衛生管理業務を適切に行っている。	b	b	7
	20 事故防止及び安全確保のために必要な対策を講じている。	b	b	
	21 仕様書等に従い、清掃業務が行われている。	b	b	

	自己	担当課	委員会	
その他	22 備品台帳に記載された備品を適切に管理している。	b	b	7
	23 外部への業務委託が適正に行われている。	a	a	

## ④改善要求点(2年目評価における運営改善を要求した項目に対する評価)

	改善要求点	対応及び評価
ア	利用料金収入について、前年度より増加しているが目標額に満たないため、PR活動の強化など更なる利用料金収入増の方策について検討されたい。	老健施設については、利用者確保のために富田林病院をはじめとする協力病院や介護保険事業者等に協力を依頼、健康づくり・世代間交流施設については、新事業・新講座を行っている。新事業や新講座は一定の効果がでており、評価できる。
イ		
ウ		

## ⑤評価者コメント

指定管理者	世代間交流施設では利用者数が増加したものの、老健施設及び自主事業の一部での利用者数の減少が、利用料金収入の減少につながりC評価が増える結果となっている。昨年度においても、利用料金収入増の方策について検討するようこの改善指導書をいただいたところであり、利用料金収入の大部分を占めている老健施設の利用者の確保に向けて、引き続き取り組む必要があると考える。
施設所管課	健康づくり・世代間交流施設については、教室事業を主催することによる新たな利用者の獲得や、新しい教室・講座の開催により利用者数が増加した。老健施設については、利用者の重度化が進んでおり、利用者の通院費、介護用品費の費用増加と、入院された方の帰ってくる場所を確保するためにベッドを空ける回数が増加したことによる収入の減少があった。新たな利用者確保のための動きは評価できる。また、利用率の低い部屋や時間帯を今後どうしていくかなど利用率向上策を担当課と施設管理者で協議し、今後も継続していく予定。

## ⑥指定管理者選定委員会による総合評価

委員会評価結果※	委員会講評
67.2 点 <small>(小数点第2位以下を四捨五入)</small>	危機管理策について、消防計画に基づく訓練が行われているということであるが、本施設は通常の避難所ではない福祉避難所としての側面があることから、現時点で策定されていない具体的な福祉避難所運営マニュアルの策定について、市ともよく協議しながら早期に検討を進め、大規模災害に備えた訓練を実施されたい。

※ 各項目の得点の合計 80.6 ÷ [委員会評価項目数(12項目)×各項目の配点(10点)]×100

[参考]

【千円】

	平成 26 年度		平成 27 年度		平成 28 年度	
	予算	決算	予算	決算	予算	決算
指定管理料	137,923	137,923	137,224	137,224	136,520	136,520
利用料金	449,218	450,926	474,474	463,480	481,520	458,454

【人】

	目標	実績	目標	実績	目標	実績
	利用者数	142,602	165,760	151,944	162,625	147,222

【%】

	目標	実績	目標	実績	目標	実績
	利用率	—	29.88	35	31.11	35

# ●指定管理者業務評価シート(3年目評価)

施設名	富田林市立総合福祉会館	施設所管課	地域福祉課
指定管理者名	社会福祉法人 富田林市社会福祉協議会		
指定期間(年度)	平成26年度 ~ 平成30年度	評価対象年度	平成 28 年度

## ①評価の実施方法

下記の評価項目ごとに、指定管理者による『自己評価』及び施設所管課による『担当課評価』を実施し、その2つの評価結果を基に富田林市指定管理者選定委員会(以下、「委員会」という。)において、評価項目に対する評価及び総合評価を行う。

## ②評価基準

- ①自己評価及び担当課評価では小項目単位でa～dの4段階(aが最良)の評価を行い、仕様書や自らの提案(業務計画)の内容を満たす問題のない内容を「b」とする。
- ②委員会評価では、上記の2つの評価を基に委員会として1～10の10段階(10が最良)で評価を行う。

## ③評価項目

評価項目	自己	担当課	委員会	
基本方針	1 管理運営の基本方針の周知が適切になされている。	b	b	7.1
	2 管理運営において環境への配慮がなされている。	b	b	
	3 施設利用における公平性が確保されている。	b	b	
	4 地域住民・各種関係団体等との意見交換や連絡調整が適切に行われている。	a	a	
コンプライアンスの取組み	5 業務実施における法令遵守のための体制が整備されている。	a	a	7.1
	6 個人情報保護に関する体制が整備されている。	b	b	
利用者数・利用率向上策	7 利用者数向上策について、提案通りに実行されている。	b	b	6.7
	8 利用促進に係る広報・PR活動を積極的に行っている。	b	b	
利用者サービス向上策	9 利用者サービス向上策について、提案通りに実行されている。	b	b	7.1
	10 利用者意見・要望が事業等に適切に反映されている。	b	b	
	11 苦情処理やトラブルへの対応について、市との連携、市への報告が適切に行われている。	a	a	
自主事業	12 自主事業の実施により、施設が有効に活用されている。			
収支計画	13 収支予算書と比較して、収支状況が妥当である。《収入》	d	d	6.1
	14 収支予算書と比較して、収支状況が妥当である。《支出》	a	a	7.6
人員配置計画	15 提案に基づき、効率性と安全性を両立した人員配置・勤務体制となっている。	b	b	6.9
人材育成についての考え方及び研修計画	16 研修計画に基づき、人権啓発のための研修が実施されている。	b	b	6.9
	17 研修計画に基づき、人材育成のための研修が実施されている。	b	b	
危機管理策	18 緊急時の体制や対応策について必要な対策を講じている。	b	b	6.9
日常の安全管理	19 事業計画書等に従い、防犯・防災・衛生管理業務を適切に行っている。	b	b	6.9
	20 事故防止及び安全確保のために必要な対策を講じている。	b	b	
	21 仕様書等に従い、清掃業務が行われている。	b	b	

	自己	担当課	委員会	
その他	22 備品台帳に記載された備品を適切に管理している。	b	b	7.1
	23 外部への業務委託が適正に行われている。	a	a	

## ④改善要求点(2年目評価における運営改善を要求した項目に対する評価)

	改善要求点	対応及び評価
ア	浴場の利用者数は減少し続けているので、アンケート調査や類似施設との比較分析を行うなど利用者離れを抑制し、また新規利用の獲得に向けた対策を検討されたい。	アンケート調査を実施し、利用状況、利用されない理由、要望等の内容を確認を行った。そのアンケートをもとに、市担当課と利用者増加策を協議している。
イ		
ウ		

## ⑤評価者コメント

指定管理者	引き続き今年度においても風呂の利用者は減少傾向にあり、多様な設備のあるスーパー銭湯などの利用増が考えられるとともに、単純な入浴施設のニーズが低下している実情があると思われます。車で来館される方が増加傾向にありますが、駐車場の拡充ができず、曜日によっては飽和状態が続いている状況です。駐車スペースでないところへの駐車など、対応に苦慮しています。
施設所管課	今年度の利用者数は増加したが、浴場利用者数は引き続き減少している。新たに取り組んだPRを継続して行ったが、効果がでなかったため、市担当課と社会福祉協議会で利用者数増加策について協議した。また、使用されなくなったゲートボール場や駐車場不足の問題についても、解決策を継続議論している。浴室のアンケートの実施や人気講座の回数増に加えて、新たな講座の開催など利用者のニーズを把握する努力をし、利用者数も増加していることは評価できる。

## ⑥指定管理者選定委員会による総合評価

委員会評価結果※	委員会講評
69.5 点 <small>(小数点第2位以下を四捨五入)</small>	浴場の利用者増加策について、例えば寄席等の他のサービスと組み合わせるなど、新たな利用者を増加させるアイデア等の情報収集、並びに利用者からアイデアを収集するしくみの構築を講じられたい。消防訓練は実施されているとのことであるが、地震などあらゆる災害に対処ができるよう多様な訓練を実施されたい。また、人権研修については、実施するだけで終わることなく、どう対処できるかまで議論を深めることで、さらに施設管理に活かされるものと期待する。

※ 各項目の得点の合計 76.4 ÷ [委員会評価項目数(11項目)×各項目の配点(10点)]×100

[参考]

【千円】

	平成 26 年度		平成 27 年度		平成 28 年度	
	予算	決算	予算	決算	予算	決算
指定管理料	49,498	49,498	49,589	49,589	50,310	50,310
利用料金	1,800	1,531	1,850	1,370	1,900	1,246

【人】

	目標	実績	目標	実績	目標	実績
	利用者数	105,072	103,779	105,912	105,674	109,980

【%】

	目標	実績	目標	実績	目標	実績
	利用率	—	45.1	51.2	49.7	55.4

# ●指定管理者業務評価シート(3年目評価)

施設名	富田林市立コミュニティセンター	施設所管課	地域福祉課
指定管理者名	社会福祉法人 富田林市社会福祉協議会		
指定期間(年度)	平成26年度 ~ 平成30年度	評価対象年度	平成 28 年度

## ①評価の実施方法

下記の評価項目ごとに、指定管理者による『自己評価』及び施設所管課による『担当課評価』を実施し、その2つの評価結果を基に富田林市指定管理者選定委員会(以下、「委員会」という。)において、評価項目に対する評価及び総合評価を行う。

## ②評価基準

- ①自己評価及び担当課評価では小項目単位でa～dの4段階(aが最良)の評価を行い、仕様書や自らの提案(業務計画)の内容を満たす問題のない内容を「b」とする。
- ②委員会評価では、上記の2つの評価を基に委員会として1～10の10段階(10が最良)で評価を行う。

## ③評価項目

	自己	担当課	委員会	
基本方針	1 管理運営の基本方針の周知が適切になされている。	b	b	7.1
	2 管理運営において環境への配慮がなされている。	b	b	
	3 施設利用における公平性が確保されている。	a	a	
	4 地域住民・各種関係団体等との意見交換や連絡調整が適切に行われている。	a	a	
コンプライアンスの取組み	5 業務実施における法令遵守のための体制が整備されている。	a	a	7.2
	6 個人情報保護に関する体制が整備されている。	b	b	
利用者数・利用率向上策	7 利用者数向上策について、提案通りに実行されている。	d	d	6.1
	8 利用促進に係る広報・PR活動を積極的に行っている。	b	b	
利用者サービス向上策	9 利用者サービス向上策について、提案通りに実行されている。	d	d	6.6
	10 利用者意見・要望が事業等に適切に反映されている。	b	b	
	11 苦情処理やトラブルへの対応について、市との連携、市への報告が適切に行われている。	a	a	
自主事業	12 自主事業の実施により、施設が有効に活用されている。	c	c	6.1
収支計画	13 収支予算書と比較して、収支状況が妥当である。《収入》	c	c	5.9
	14 収支予算書と比較して、収支状況が妥当である。《支出》	a	a	7.3
人員配置計画	15 提案に基づき、効率性と安全性を両立した人員配置・勤務体制となっている。	b	b	6.9
人材育成についての考え方及び研修計画	16 研修計画に基づき、人権啓発のための研修が実施されている。	b	b	7.4
	17 研修計画に基づき、人材育成のための研修が実施されている。	b	b	
危機管理策	18 緊急時の体制や対応策について必要な対策を講じている。	b	b	6.8
日常の安全管理	19 事業計画書等に従い、防犯・防災・衛生管理業務を適切に行っている。	b	b	7.1
	20 事故防止及び安全確保のために必要な対策を講じている。	b	b	
	21 仕様書等に従い、清掃業務が行われている。	b	b	

	自己	担当課	委員会	
その他	22 備品台帳に記載された備品を適切に管理している。	b	b	6.9
	23 外部への業務委託が適正に行われている。	a	a	

## ④改善要求点(2年目評価における運営改善を要求した項目に対する評価)

	改善要求点	対応及び評価
ア	安定的、継続的な施設の管理運営に資するよう、利用料金収入増の方策について検討された。	新たな利用者獲得のために、「歌声喫茶」「子ども手話講座」を実施している。特に歌声喫茶は好評で、大伴小学校の生徒と施設利用者との新たな交流の場になっている。施設の目的である世代間交流の促進はできていると思われる。ただし、収益事業ではないため、28年度の収益は増になっていないが、新たな利用者が増えることは、今後の収益増に繋がる可能性があるので評価できる。
イ		
ウ		

## ⑤評価者コメント

指定管理者	収支計画において、設備の経年劣化が激しくなっており修繕費が増加している。また、貸館や浴室利用者が固定化しており利用料も伸びない状況であるため、収支バランスが不安定な状況が続くと予想される。利用者数においては、有料の部分での利用者数を挙げているため、無料のスペース活用では反映されず減少傾向となっており、今後数値の考え方も検討して欲しい。
施設所管課	利用頻度の高い団体や個人の利用がなくなったため、利用者は減少したが、新たな利用者を獲得するために「歌声喫茶」や「子ども手話講座」の試験的実施を行うなど新たな試みを行っている点は良い傾向と思われる。また、利用率の低い部屋を今後どうしていくかなど利用率向上策を担当課と施設管理者で協議を行い、今後も継続して検討していく。

## ⑥指定管理者選定委員会による総合評価

委員会評価結果※	委員会講評
67.8 点 <small>(小数点第2位以下を四捨五入)</small>	研修については、より効率的に職員が職務として受講できるよう、勤務体制や研修形式について検討されたい。また、消防訓練のみならず、地震などあらゆる災害に対処ができるよう多様な訓練を実施されたい。なお、研修計画については、バラエティーに富んでおり、非常に良い内容で実施されたと評価でき、今後も継続されたい。校区外のこどもの施設利用に関する制限については、教育委員会と調整しながら運用改善に取り組まれたい。なお、施設がより利用され易くなるような雰囲気づくりや地域拠点としての施設のあり方について議論されるよう望む。

※ 各項目の得点の合計 81.4 ÷ [委員会評価項目数(12項目) × 各項目の配点(10点)] × 100

[参考]

【千円】

	平成 26 年度		平成 27 年度		平成 28 年度	
	予算	決算	予算	決算	予算	決算
指定管理料	40,864	40,864	41,021	41,021	41,266	41,266
利用料金	5,206	5,206	5,401	4,852	5,174	4,660

【人】

	目標	実績	目標	実績	目標	実績
	利用者数	64,812	66,909	65,484	67,223	66,132

【%】

	目標	実績	目標	実績	目標	実績
	利用率	—	42.4	43	43.1	43

# ●指定管理者業務評価シート(3年目評価)

施設名	富田林病院	施設所管課	健康づくり推進課
指定管理者名	社会福祉法人恩賜財団済生会支部大阪府済生会		
指定期間(年度)	平成26年度 ~ 平成30年度	評価対象年度	平成 28 年度

## ①評価の実施方法

下記の評価項目ごとに、指定管理者による『自己評価』及び施設所管課による『担当課評価』を実施し、その2つの評価結果を基に富田林市指定管理者選定委員会(以下、「委員会」という。)において、評価項目に対する評価及び総合評価を行う。

## ②評価基準

①自己評価及び担当課評価では小項目単位でa～dの4段階(aが最良)の評価を行い、仕様書や自らの提案(事業計画)の内容を満たす問題のない内容を「b」とする。

②委員会評価では、上記の2つの評価を基に委員会として1～10の10段階(10が最良)で評価を行う。

## ③評価項目

		自己	担当課	委員会
基本方針	1 管理運営の基本方針の周知が適切になされている。	a	a	8.1
	2 医療廃棄物等において環境への配慮がなされている。	a	a	
	3 施設利用における公平性(経済的・疾病的・年齢)が確保されている。	a	a	
	4 自治体・地域医療機関等との意見交換や連携が適切に行われている。	a	a	
コンプライアンスの取組み	5 業務実施における法令遵守のための体制が整備されている。	a	a	7.9
	6 個人情報保護に関する体制が整備されている。	a	a	
利用者数・利用率向上策	7 利用者数向上策について、提案通りに実行されている。	b	b	7.4
	8 利用者への情報提供が適時かつ適切に行われている。(医療法による広告可能な範囲)	a	a	
利用者サービス向上策	9 利用者サービス向上策について、提案通りに実行されている。	a	a	7.2
	10 利用者意見・要望が事業等に適切に反映されている。	a	b	
	11 苦情処理やトラブルへの対応について、市との連携、市への報告が適切に行われている。	a	a	
	12 南河内圏域救急医療体制の協力病院として救急医療の提供が適切になされている。	a	a	
社会貢献事業	13 市と連携・協力しながら、政策的医療の提供など、公的病院としての役割を果たしている。	a	a	8.0
	14 社会貢献事業の内容が、施設の利用を促進し、また施設目的の達成に寄与している。	a	a	
収支計画	15 収支予算書と比較して、収支状況が妥当である。《収入》			
	16 収支予算書と比較して、収支状況が妥当である。《支出》			
人員配置計画	17 提案に基づき、安定した医療提供のための人員配置・勤務体制となっている。	a	a	7.8
	18 障害者雇用促進法を遵守している。	a	a	
人材育成についての考え方及び研修計画	19 研修計画に基づき、人権啓発のための研修が実施されている。	a	a	7.5
	20 研修計画に基づき、人材育成のための研修が実施されている。	a	a	
危機管理策	21 緊急時の体制や対応策について必要な対策を講じている。	a	a	7.9

		自己	担当課	委員会
日常の安全管理	22 事業計画書等に従い、防犯・防災・衛生管理業務を適切に行っている。	a	a	7.2
	23 事故防止及び安全確保のために必要な対策を講じている。	a	b	
その他	24 医療用機器を含む備品を適切に管理している。	a	a	7.5
	25 外部受託者の業務の点検・評価が適正に行われている。	a	a	

## ④改善要求点(2年目評価における運営改善を要求した項目に対する評価)

	改善要求点	対応及び評価
ア		
イ		
ウ		

## ⑤評価者コメント

指定管理者	すべての項目において一定の評価に値する結果と認識している。少子高齢化社会において、地域の中核的医療機関としての役割を果たすべく取り組んでいる。また、社会貢献事業を積極的に推し進め、済生会の理念でもある生活困窮者への支援として無料低額診療や無料健診等、格差の広がる社会構造へ積極的に対応している。富田林市、近畿大学医学部と済生会の医療機能連携協定締結による医療提供体制の構築が救急患者の受入れの拡大、心臓疾患への対応力向上の実現を果たし、今後もこの医療圏において永続性のある、市民にとっての存在意義を獲得できる病院運営が実践していけることを強く確信している。
施設所管課	本市、近畿大学医学部、大阪府済生会との医療機能連携協定により、平成28年4月に院長を含め4名の循環器内科医、1名の消化器内科医が確保できたため、入院患者数、時間外急患取扱患者数は大幅増となった。また、循環器内科医の確保とアンギオ装置の更新により、カテーテル検査や血管内治療もできるようになった。平成28年度は、入院患者数など大幅に改善されておりますが、接遇等、改善すべき点もありますので、今後、更なるレベルアップに励むよう望むものです。

## ⑥指定管理者選定委員会による総合評価

委員会評価結果※	委員会講評
76.5 点 <small>(小数点第2位以下を四捨五入)</small>	苦情・要望等への対応について、待ち時間に関するものが散見され、実際にそのように感じている患者が多いことは事実である。建て替えを控えていることもあり、新たなコンピュータシステムの導入等による改善は困難と思われるが、今行われている、診療中患者の予約区分の掲出に加え、統計的な調査等による診療科目毎の予約数の調整など、現在可能な範囲において、より患者の理解が得られる対策を講じられたい。 また、院内で発生した問題事案については、職員間で情報共有し、病院に従事する者としての人権意識等のさらなる向上に努めていただきたい。

※ 各項目の得点の合計 76.5 ÷ [委員会評価項目数(10項目)×各項目の配点(10点)]×100

[参考]

【千円】

	平成 26 年度		平成 27 年度		平成 28 年度	
	予算	決算	予算	決算	予算	決算
収入合計						
支出合計						

【人】

	目標	実績	目標	実績	目標	実績
	入院患者数	70,445	63,295	71,558	64,506	78,475
外来患者数	186,500	184,702	187,000	190,296	196,700	192,732

【%】

	目標	実績	目標	実績	目標	実績
	病床利用率	76.9	69.1	77.9	70.2	85.6

# ●指定管理者業務評価シート(3年目評価)

施設名	富田林市立じないまち交流館	施設所管課	文化財課
指定管理者名	富田林寺内町をまもりそだてる会		
指定期間(年度)	平成26年度 ~ 平成30年度	評価対象年度	平成 28 年度

## ①評価の実施方法

下記の評価項目ごとに、指定管理者による『自己評価』及び施設所管課による『担当課評価』を実施し、その2つの評価結果を基に富田林市指定管理者選定委員会(以下、「委員会」という。)において、評価項目に対する評価及び総合評価を行う。

## ②評価基準

- ①自己評価及び担当課評価では小項目単位でa～dの4段階(aが最良)の評価を行い、仕様書や自らの提案(業務計画)の内容を満たす問題のない内容を「b」とする。
- ②委員会評価では、上記の2つの評価を基に委員会として1～10の10段階(10が最良)で評価を行う。

## ③評価項目

	自己	担当課	委員会	
基本方針	1 管理運営の基本方針の周知が適切になされている。	a	a	7.4
	2 管理運営において環境への配慮がなされている。	b	b	
	3 施設利用における公平性が確保されている。	a	a	
	4 地域住民・各種関係団体等との意見交換や連絡調整が適切に行われている。	a	a	
コンプライアンスの取組み	5 業務実施における法令遵守のための体制が整備されている。	a	b	6.7
	6 個人情報保護に関する体制が整備されている。	a	b	
利用者数・利用率向上策	7 利用者数向上策について、提案通りに実行されている。	c	b	6.4
	8 利用促進に係る広報・PR活動を積極的に行っている。	a	b	
利用者サービス向上策	9 利用者サービス向上策について、提案通りに実行されている。	c	b	7
	10 利用者意見・要望が事業等に適切に反映されている。	a	a	
	11 苦情処理やトラブルへの対応について、市との連携、市への報告が適切に行われている。	a	a	
自主事業	12 自主事業の実施により、施設が有効に活用されている。	c	b	6.3
収支計画	13 収支予算書と比較して、収支状況が妥当である。《収入》			
	14 収支予算書と比較して、収支状況が妥当である。《支出》	a	a	6.9
人員配置計画	15 提案に基づき、効率性と安全性を両立した人員配置・勤務体制となっている。	a	b	6.7
人材育成についての考え方及び研修計画	16 研修計画に基づき、人権啓発のための研修が実施されている。	b	b	6.5
	17 研修計画に基づき、人材育成のための研修が実施されている。	a	a	
危機管理策	18 緊急時の体制や対応策について必要な対策を講じている。	b	b	6.5
日常の安全管理	19 事業計画書等に従い、防犯・防災・衛生管理業務を適切に行っている。	b	b	6.5
	20 事故防止及び安全確保のために必要な対策を講じている。	b	b	
	21 仕様書等に従い、清掃業務が行われている。	a	b	

	自己	担当課	委員会	
その他	22 備品台帳に記載された備品を適切に管理している。	b	b	6.9
	23 外部への業務委託が適正に行われている。	a	a	

## ④改善要求点(2年目評価における運営改善を要求した項目に対する評価)

	改善要求点	対応及び評価
ア		
イ		
ウ		

## ⑤評価者コメント

指定管理者	じないまち交流館のHPにて、交流館の利用方法・展示予定・イベント予定・ボランティアガイド申込案内などの情報発信を行っている。またH28/2月に当HPをリニューアルし、最新の店舗情報や駐車場情報も記載して好評の手書き「じないまち案内地図」や、当会発行の「寺内町瓦版」を新HPから閲覧、ダウンロード、印刷可能とした。会議室の落書き等による利用制限の影響もあり、年間利用率、利用時間は目標に達しなかったが、日頃の情報発信、普及啓発の甲斐もあり、四季物語・雛めぐりでの入館者数は27年度実績より1,000人程度増える結果となった。コスト面においては、指定管理当初から、必要最低限の人員、資金で施設の管理にあたっており、資金不足分は自主事業収益による補てんにより、安定的な管理運営を維持している。
施設所管課	事業計画を概ね充足した内容の施設運営が実施されている。特に今年度については、外国人観光客の増加に伴う対応として、全職員を「富田林寺内町の歴史講座とバイリンガルツアー」に参加させることで外国語案内を強化されており、利用者数の向上や利用者サービスの向上に寄与している。また、府内の最低賃金単価の増額に伴い、人件費が増額したが、積極的に自主事業を実施し計画以上の収益を上げられ業務に支障はなかった。また、指定管理当初から引き続き、必要最低限の賃金で施設の管理にあたっており、適正な施設管理、安定的なサービス供給を維持しつつ、コスト削減にも積極的に取り組まれていることなど評価できる。

## ⑥指定管理者選定委員会による総合評価

委員会評価結果※	委員会講評
67.1 点 <small>(小数点第2位以下を四捨五入)</small>	貸室の利用率について、28年度は一部利用を制限せざるを得ない事情があったということであるが、それを勘案してもなお低いと感じる。研修についても、最低限の内容は行われているが、接遇の向上や他市施設の事例研究など、その運営の質を向上させるものも必要であると思われるため、貸室の利用率の向上策と併せて検討されたい。 災害時の安全対策について、訓練は実施されているが、有事に対応するに十分なものであったのかどうかについては疑問が残るところである。そのため、利用者の属性を含めた様々な被害想定の中で、行動マニュアルを策定されたい。

※ 各項目の得点の合計 73.8 ÷ [委員会評価項目数(11項目)×各項目の配点(10点)]×100

[参考]

【千円】

	平成 26 年度		平成 27 年度		平成 28 年度	
	予算	決算	予算	決算	予算	決算
指定管理料	4,642	4,642	5,105	5,105	4,797	4,797
利用料金	—	—	—	—	—	—

【人】

	目標	実績	目標	実績	目標	実績
	利用者数	24,600	34,061	31,500	34,068	34,027

【%】

	目標	実績	目標	実績	目標	実績
	利用率	—	24.1	22	27	12.6

※利用率算出方法については、平成28年度より変更されています。

平成27年度以前は

会議室・和室利用時間合計

開館時間(7時間)×開館日

平成28年度以降は

会議室・和室利用時間合計

開館時間(7時間)×開館日×2部屋

# ●指定管理者業務評価シート(3年目評価)

施設名	富田林市立総合スポーツ公園	施設所管課	生涯学習課
指定管理者名	株式会社オーエンス		
指定期間(年度)	平成26年度 ~ 平成30年度	評価対象年度	平成 28 年度

## ①評価の実施方法

下記の評価項目ごとに、指定管理者による『自己評価』及び施設所管課による『担当課評価』を実施し、その2つの評価結果を基に富田林市指定管理者選定委員会(以下、「委員会」という。)において、評価項目に対する評価及び総合評価を行う。

## ②評価基準

- ①自己評価及び担当課評価では小項目単位でa～dの4段階(aが最良)の評価を行い、仕様書や自らの提案(業務計画)の内容を満たす問題のない内容を「b」とする。
- ②委員会評価では、上記の2つの評価を基に委員会として1～10の10段階(10が最良)で評価を行う。

## ③評価項目

	自己	担当課	委員会
基本方針	1 管理運営の基本方針の周知が適切になされている。	a	a
	2 管理運営において環境への配慮がなされている。	b	b
	3 施設利用における公平性が確保されている。	a	a
	4 地域住民・各種関係団体等との意見交換や連絡調整が適切に行われている。	b	b
コンプライアンスの取組み	5 業務実施における法令遵守のための体制が整備されている。	a	a
	6 個人情報保護に関する体制が整備されている。	a	a
利用者数・利用率向上策	7 利用者数向上策について、提案通りに実行されている。	a	a
	8 利用促進に係る広報・PR活動を積極的に行っている。	c	c
利用者サービス向上策	9 利用者サービス向上策について、提案通りに実行されている。	a	a
	10 利用者意見・要望が事業等に適切に反映されている。	a	a
	11 苦情処理やトラブルへの対応について、市との連携、市への報告が適切に行われている。	a	a
自主事業	12 自主事業の実施により、施設が有効に活用されている。	b	b
収支計画	13 収支予算書と比較して、収支状況が妥当である。《収入》	c	c
	14 収支予算書と比較して、収支状況が妥当である。《支出》	a	a
人員配置計画	15 提案に基づき、効率性と安全性を両立した人員配置・勤務体制となっている。	a	a
人材育成についての考え方及び研修計画	16 研修計画に基づき、人権啓発のための研修が実施されている。	b	b
	17 研修計画に基づき、人材育成のための研修が実施されている。	b	b
危機管理策	18 緊急時の体制や対応策について必要な対策を講じている。	a	a
日常の安全管理	19 事業計画書等に従い、防犯・防災・衛生管理業務を適切に行っている。	b	b
	20 事故防止及び安全確保のために必要な対策を講じている。	a	a
	21 仕様書等に従い、清掃業務が行われている。	b	b

	自己	担当課	委員会
その他	22 備品台帳に記載された備品を適切に管理している。	b	b
	23 外部への業務委託が適正に行われている。	a	a
			6.7

## ④改善要求点(2年目評価における運営改善を要求した項目に対する評価)

	改善要求点	対応及び評価
ア	各スポーツ団体との意見交換の場を積極的に設け、各団体のサポートや協力して事業を実施するとともに、市民のスポーツへの参加の機会を増やす方針について検討されたい。	体育協会との意見交換会を実施するとともに、日々の利用における利用団体・利用者との積極的なコミュニケーションをとっており、改善されている。また、利用団体と運営協力をしながら自主事業を実施したり、自主事業へ参加しやすいように無料送迎バスの運用を行い、スポーツへの参加の機会を増やす方針を実施するなど、大変評価できる。
イ	利用者数の維持・増加につながる施策、特に稼働率の低いゲートボール場の有効活用方法について検討提案して頂きたい。	現状、ゲートボール場の新しい有効活用方法は提案できていない。しかしながら、①現状のゲートボール場の利用者の利用のための確保②他の種目の利用者を利用させる際の整地③整備のための予算等、種々の課題があり、即時移行には困難な状況であるため、引き続き所管課と指定管理者が連携して課題解決に向けた検討を行っていききたい。
ウ		

## ⑤評価者コメント

指定管理者	指定管理者3年目の管理運営となりました。屋外施設の特性上、天候により利用状況が左右される点もありましたが、初年度から実施しています野球場の冬芝の導入等、快適なプレー環境の提供を心掛けた結果、利用者間の口コミ等から施設利用が増加するなど利用者満足度を向上させることができたと考えています。また、新たに実施しました「野球教室」や「かけっこ教室」等の新規事業についても参加者より非常に好評を得ることができ、29年度に繋がる結果となりました。一方、施設の経年による設備の不具合等も多く発生したため、計画的な改善と稼働率の低いゲートボール場の利用方法の見直しなどが29年度への課題として挙げられます。
施設所管課	28年度は天候不良が多かったこともあり、利用率は減少する結果となった。しかしながら、利用者本位の運営やサービスの拡充に努めており、結果、施設利用者数や自主事業参加者数が増えるなど、施設の利用を促進するような運営がなされていると評価できる。今後も利用者サービスの向上を目指した運営を行って頂けるものと期待している。ただし、利用料金収入について、昨年度よりは上がったものの、提案額を超えておらず、その点が今後の課題としてあげられる。

## ⑥指定管理者選定委員会による総合評価

委員会評価結果※	委員会講評
66.8 点 <small>(小数点第2位以下を四捨五入)</small>	自主事業収入決算の伸長に比して、利用料金収入決算が低調であるが、自主事業の趣旨が「施設の利用率・利用者数向上のための事業」である以上、その実施に当たり、当該趣旨の考慮を踏まえた内容としていただきたい。人権研修について、総論的な内容で実施されているが、公の施設の管理者としては、高い人権意識を求められるものであり、常に新しい見方・考え方が生まれる分野でもあることから、より新しい情報、具体的な内容により実施されたい。

※ 各項目の得点の合計  $80.2 \div [委員会評価項目数(12項目) \times 各項目の配点(10点)] \times 100$

[参考]

【千円】

	平成 26 年度		平成 27 年度		平成 28 年度	
	予算	決算	予算	決算	予算	決算
指定管理料	43,381	43,254	41,050	41,050	41,050	41,050
利用料金	17,900	16,848	17,900	16,799	17,900	16,933

【人】

	目標	実績	目標	実績	目標	実績
	利用者数	88,121	96,200	88,121	87,023	88,121

【%】

	目標	実績	目標	実績	目標	実績
	利用率	38	30.4	38	32.6	38